

～ 猫に多いトラブルを防ぐために ～

近年、動物愛護が普及している一方で、公園や公共施設等への子猫の遺棄、外飼い猫の無秩序な繁殖等の事例は少なくありません。また、生活環境におけるふん尿や鳴き声等の被害、近所トラブルなども発生しています。

飼い主の皆さんへ

室内で飼いましょう



猫は室内で飼い、交通事故、争いによるケガ、感染症などの危険から守りましょう。ふん尿やゴミを荒らす、鳴き声がうるさいなど、猫による周囲の人への被害をなくすことは飼い主の責務です。猫を自由に放して周辺に迷惑をかけることは、猫にとっても不幸なことになります。

首輪や迷子札、マイクロチップをつけましょう



飼い猫だと分かるように、しっかりと所有明示（身元表示）をしましょう。たとえ室内飼であっても、開いた窓やドアからの脱走や突然の災害などで驚いて逃げてしまうことも考えられます。

不妊・去勢手術をして飼いましょう



「手術をするのはかわいそう」などの理由で不妊・去勢手術をしないしていると、飼い主の知らない間に子猫が生まれることがあります。1頭のメス猫から子猫が生まれ、1年後には合計20頭以上に増えることもあります。世話をしきれなくなることは社会問題にもなっています。

責任をもって世話ができる頭数なのかをよく考えましょう。

飼い主のいない猫にエサを与えている方へ

猫に餌を与えている場所には、他の場所にいた猫が餌を求めて寄ってきます。多くの猫が集まった結果、発情やケンカによる鳴き声や、餌・トイレの管理が行き届かなくなるなどのトラブルの原因になってしまいます。また、繁殖の機会が増えることにより、多くの子猫が生まれます。

かわいそうという気持ちで始めた餌やりが、結果として不幸な命を増やすだけの行為にならないよう、無責任な餌やりは控えましょう。